秋田大学教育文化学部附属小学校　校　報

はとの子だより

No.１　令和７年４月７日（月）発行

学校教育目標　　自律　　のびのび　きびきび　わくわく

151年目の再出発

まだまだ肌寒い４月４日（金）の朝、７時を少しだけ回った昇降口前に、４年生が２人、早くも解錠を待っていました。

「副校長先生、池の蓮がもう花を咲かせてるよ」

１人がそんなことを言うので、どれどれと見に行くと、確かに一輪の花が水面に顔をのぞかせています。「ほんとだ」と応えましたが、蓮ってそんなに早く咲くんだったろうかと訝しんでいると「うそだよ～本当はバス停のところに落ちてた花を浮かべただけ」と種明かししてくれました。一足遅れのエイプリルフールです。まんまとしてやられました。その悪知恵に苦笑しつつ、「春待つ心の表れかな」とも感じました。放課後にまた池をのぞいてみると、もうあのニセ蓮はありませんでした。いたずらの後始末はしっかりとしたようで感心しました。

さて、毎年恒例、３・５年のクラス発表と学級担任の発表セレモニーが行われました。

新５年生の中には、６年間で３クラスを全部コンプリートしたと言って喜んでいる子、ずっと Ｂ 組だったと苦笑いしている子など、様々な反応でしたが、どの子も新しいクラスメートに期待でいっぱいのようでした。

新３年生の中には、隣のクラスがよかった、と目に涙を浮かべている子がいたので、「大丈夫だよ。ここもいいクラスだよ」と励ましておきました。

新任式・始業式は、目が覚めるような校歌斉唱から始まりました。８名の新任の先生方のほとんどが、その歌声に驚いたり感動したりした気持ちを率直に伝えてくれました。

新任の先生方への歓迎のことばでは、６年Ｂ組の三浦結衣さんが、附属小学校の魅力を紹介してくれました。一つ目は異学年ペアによる趣向走が特色の「はとの子運動会」、二つ目は全校が一つの目標に向かって一体感を味わえる「はとの子学習発表会」、三つ目は平和の象徴である学

校のシンボル「はと」です。結衣さんが、学校教育目標「自律」の実現に向けて、この三つの魅力ある特色を大切にし、高い理想を掲げていることに感心させられました。

始業式では、４年Ｂ組の竹島藍さんが、「これまで優しい上級生からしていただいてきた親切を、今度は全校のみんなに返したい」と新年度を迎えての意欲を発表しました。藍さんは、「親切は、してもされても気持ちがすっきりして、お互いの心が温かくなります」と話していました。

学校創立１５０周年という節目を越えて、今年度は１５１年目の再出発と考えています。

高学年では教科担任制・学年担任制をより一層推進し、教員の専門性を生かすとともに、多感な時期の悩みや困り事に多くの教員が相談に乗れる体制を強化しました。

一方で１年生は、最初の２か月を誕生月で均等割した仮学級で過ごし、学級担任も仮学級を一定期間ごとにローテーションします。その間、保護者の方々にも積極的に授業に参加していただき、子どもと保護者と教員が相互に理解し合い、親睦を深めながら、６月の本学級編成に向けて、みんなで子どもを育てる体制を強化します。

また新たな学校づくりの始まりです。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

令和７年度の職員です。どうぞよろしくお願いします

◎は学年主任

校　　長：佐々木雅子
副　校　長：京野　真樹
教　　頭：菅野　宣衛
教務主任：渡部　和朝
研究委員長：稲垣　勇介
生徒指導主事：石井　知徳
養護教諭：佐藤　素子
栄養教諭：三浦久美子
事務室長：戸島　隆造
主　　査：藤井　　舞
事務系補佐員：奈良　千穂
情報担当：加藤奈緒美
図書担当：伊藤　貴子
給食担当：白坂千佳子
小森　紀子
平川　直子
齊藤ヨリ子
伊藤　春菜

学年	組	氏名	研究教科等	学年所属（担当教科）
1	◎	猿田　千穂子	算数	徳原由美子
		丹　理人	生活	石戸美保子
		加賀屋　綾乃	体育	※学級及び担任は６月に決定
2	A	奥田　瑞季	音楽	谷地るり子
	B	佐藤　咲紀	算数	吉田　純子
	C◎	柴田　省吾	生活	
3	A	工藤　優花	国語	伊藤　智美（算数）
	B◎	山崎　泰明	社会	太田　章子
	C	鎌田　佳佑	国語	
4	A	永須　千尋	理科	鈴木　真理（国語）
	B◎	石田　智之	社会	佐藤亜樹子
	C	大森　果歩	図画工作	
5	A	三浦　茉子	図画工作	大山　光子（音楽）
	B◎	山崎　麻絵	外国語	今井佐都香
	C	石井　知徳	社会	
6	A◎	山田　幹	体育	小室　真紀（家庭・国語）
	B	米山　小幸	道徳	大谷　陽子
	C	佐々木　駿斗	体育	

4月4日（金）の始業式で、佐々木雅子校長が全校児童に向けて話した内容を、以下に掲載します。

おはようございます。今日から新年度、附属小学校の新たな一年の始まりです。始まりの時はいつも、今までにない新しい出会いや発見が起こりそうで、楽しい事や嬉しい事が待っていそうで、どきどきしますね。

さて、今スタート地点に立った皆さん、どんな一年にしようと考えていますか。スタートで大事なことは、静けさの中で心が落ち着いているということです。運動会の50M走、100M走、リレー、スタートでは空気も心も何故か一瞬ぴたりと止まります。オリンピックの陸上競技や水泳競技も然り、動いたら失格になるほどの大事な瞬間です。そのように、スタートは、平等に公平に全員が同じ条件にあるように、動かない静けさの時を用意します。その静けさは、号砲の合図とともに破られ、一斉に動き出します。まさに、「静から動へ移る瞬間」がスタートと言えるでしょう。この大事なスタートである一年の始まりの始業式に、皆さんに紹介したい人物とことばがあります。

司馬遼太郎という人を知っていますか。歴史が好きな人は知っているかもしれませんね。1923 年生まれ、2023 年に生誕 100 年を迎えた歴史小説家です。この偉大なる歴史小説家は、小学生に向けて、平成元年（1989 年）『二十一世紀に生きる君たちへ』という随筆（エッセイ）を書いています。みなさんのお父さんやお母さんが小学生だった頃でしょう。その中で、司馬遼太郎は、人間の社会は支え合うものであること、一人では生きられない自然物であるから助け合う必要があること、助け合うためには他人の痛みを感じおもいやりを持つことが大切であることを伝えています。

二十一世紀を生きる皆さんに、次のように語りかけています。

「『やさしさ』『おもいやり』『いたわり』『他人の痛みを感じること』みな似たような言葉である。これらの言葉は、もともと一つの根から出ている。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならない。」さらに続けて、「人間

は、いつの時代でもたのもしい人格をもたねばならない。男女とも、たのもしくない人格に魅力を感じないのである。（中略）自分には厳しく、あいてにはやさしく、とも言った。それらを訓練せよ、とも言った。それらを訓練することで、自己が確立されていく。そして、“たのもしい君たち”になっていく。以上のことは、いつの時代になっても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。」

皆さんは二十一世紀を生きるたのもしい人物となるでしょう。しかし、そのためには「訓練」が必要です。司馬遼太郎は、理屈や頭でわかるのではなく、「訓練によって身につける」ことを「ねばならない」と訴えています。それは平和な社会を持続させるための生きる上での心であると、推敲に推敲を重ねた文章にそのメッセージを込めています。

皆さんはまだ社会に出ていませんが、この学校が皆さんにとっての社会です。人が人として生きていくための「訓練」ができる場のひとつが学校です。友だちや先生たちと交わす挨拶や感謝、授業の始まりや終わりの時刻を守り学習に向かう姿勢、儀式や集会で語られるお話しに耳を傾け受け取る賢さ、相手をいたわり助け合い支え合う気持ち、経験を重ねてひとつひとつ身につけていくことができる場です。ひとつひとつは小さい日常のことですが、大きな揺るぎない伝統をもつ附属小学校であり続けるための、欠かすことのできないことです。

お家に帰ったら、お父さんやお母さんに「『二十一世紀に生きる君たちへ』って知っている？」と尋ねてみて下さい。きっと聞いたことがあるよ、知ってるよ、覚えているよなどの答えが返ってくるはずです。インターネット上でも探せる短いエッセイですから、一緒に読んで、分からないところを聞いたり、感想を語り合ってほしいと思います。小学校の頃のお父さんお母さんのことも聞いてみると良いと思います。

さあ、皆さん一人ひとり、先生方ひとりひとり、全員で附属小学校の歴史を創っていく令和７年度のスタートが切られました。附属小学校の未来は、皆さんひとりひとりの手の中にあります。皆さんの成長を見つめ守り、その成長する様子を楽しみにしています。